

いずみさの教育

NOW

問合先
学校教育課

「小・中学校の学級編成と学習形態」

「35人学級編成」

令和3年3月末、「公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律の一部を改正する法律案」が可決され、小学校1学級あたりの定員が約40年ぶりに引き下げられました。以前は1年生のみ35人、2～6年生は40人が定員でしたが、令和3年度は2年生、令和4年度は3年生と段階的に35人の定員に移行し、令和7年度には全学年が「35人学級編成」となります。学級編成上の定員は支援学級在籍児童を別に計上します。が、支援学級児童を含めると実質35人を超える場合があるため、本市では小学校の「支援学級在籍児童を含め40人以上となる学級」や中学校の「35人学級編成」などについては、市の施策として必要な市費講師を段階的に配置しています。

状況把握、いじめや不登校への対応、学力向上やICT機器の活用など、多くの面で充実を図ることもできます。

少人数・習熟度別指導
特定の教科についてクラスを半数に分けたり、学年全体を数クラスに分けるなど、人数を減らして学習することで、一人ひとりの習熟度や興味・関心などを丁寧に把握でき、よりきめ細やかな指導が可能になります。

【教科担任制の推進】
中学校のように各教科を担当教員が指導する教科担任制の推進が、小学校でも少しずつ広がっています。小学校では、担任が多くの教科を指導し、専科指導教員が一部の教科を行うのが一般的でしたが、担任が指導教科を減らし、専科指導教員を配置することで、より専門性の高い指導の実施と、担任の負担軽減が図られています。

このように、小・中学校の学級編成や学習形態は、法改正などにより新たな教育施策が打ち出されています。本市の小・中学校も、児童生徒一人ひとりの状況を丁寧に把握し、安心して学べる学校づくり、学習環境づくりをすすめていきます。

学校園紹介

たてわり活動「一小タイム」
～第一小学校～

第一小学校では一年を通して縦割り活動「一小タイム」を行っています。1～6年生までの縦割りグループを12グループ作り、1年間で6回、外遊びや室内遊びで交流しています。「一小タイム」では、各グループの6年生が中心となって各回の活動内容を決め、進行を行います。毎回、運動場・体育館・教室が順番に割り当てられ、それぞれの場所で活動を行います。ドッジボールやおにごっこ、フルーツバスケットなど、時には6年生が考えた遊びで、楽しんで交流しています。中心となる6年生は、いつもしっかりと活動をリードしてくれます。前年まで上の学年に頼っていた子どもたちが、6年生になって下の学年の子どもたちを引っ張っていく姿を見ると、とても頼もしく感じます。

「一小タイム」で仲良くなった子どもたちは、普段の休み時間でも学年を超えて遊ぶ姿が見られます。

第一小学校ではこのような異学年交流を通して、年長者としての自覚や仲間を大切にすることを育て、人も自分も大切にする集団づくりを行っています。

交流活動などを通じた学校の取組
～第二小学校～

特色ある教育活動について従来から二小が大切にしている取組に加えて、今年度からの新たな取組を紹介します。

【にっこ二小タイム】 コロナ禍の間は、集団活動や子どもたち同士の活動が制限され、人間関係づくりに弱さを感じる部分がありました。児童会や高学年児童が中心となって異学年交流（たてわり）活動を通して子どもたち同士のつながりを深める活動を再始動しました。

【全校児童活動】 11月に全児童向けの人権講演会を実施しました。講師に泉佐野市社会福祉協議会の人と大学の先生を招いて「ボッチャの体験会」と「障がい理解」について講演してもらいました。ボッチャ体験のエキシビジョンマッチではスーパープレーも見られ、会場はおおいに盛り上がりしました。

【地域との交流会】 6月に地域の人が学校へ来て、4年生と「風車」づくり工作で交流をしてくれました。3クラスに分かれて丁寧に作成手順を教わりながら、ものづくり体験をしました。どの風車も味わい深く仕上がり、児童たちも喜んで歓声や笑顔があふれ、本当に楽しい時間になりました。教わったお礼に歌の披露と、感謝状を渡しました。

